

## うへにさぶらうプレラノドン

谷藤 佐喜子

うへにさぶらうプレラノドンは  
高いがけにしか降りられない。  
うへにさぶらうプレラノドンは  
地上におりるとしんでしまう。  
うへにさぶらうプレラノドンは  
自神山地ができたころ生きていた。

うへにさぶらう私たちは  
その九千万年後自神山地を観た。  
うへにさぶらう私たちは  
プレラノドンのすがたを見た。  
うへにさぶらう私たちは  
自神山地の歴史を見た。

うへにさぶらうプレラノドンは  
さらにいとおかし。

(原文のまま)

## プレラノドンの話

上記の詩は一九九〇年、作者が高校2年生の時、二ツ森に登り、山頂に立った時の感動をその夜宿舎でわら版紙にさらさらと書かれたものでした。

登山中に自神岳を中心に広く見渡される場所で、自神山地の土台となっている地質について紹介し、最も古い岩石ができた頃、恐竜の一種であるプレラノドンが飛び回っていたことを話しました。続けて、プレラノドンの翼は大きすぎて平地に降りると、もう飛び立つことができなく、地面に降りる時は必ず高い崖に降り、飛び立つ時は崖からとび出すようにして舞い上がったことなどを話していたのです。

八峰町の地形や地質をみると、これに似たたくさんのお話ができます。これらを来町された人たちに紹介していこうというのがジオパークの考えです。

## 八峰町ジオパークの特色

世界自然遺産地域を東方にひかえている八峰町はほとんど手つかずの自然林からなる遺産に隣接していることになりました。その自然林を眺ようと人々が当町を訪れるようになりました。しかし、遺産地域に入山することは原則として禁止されています。つまり自神山地の成り立ちを説明するための地層や岩石などにはじかに触れたりできません。

しかし、幸に13万haにも及ぶ自神山地の西端が、あたかもデコレーション

ケーキを切るように海の荒波によってけずり取られているのです。つまり遺産地域に入ることなく海岸を歩くことでケーキの中身をじかに見、ふれることができるということなのです。

秋田大学教授林信太郎氏がこれまで度々行って下さった講演や現地案内で口にしてきた「自神山地はなぜ高い？」について考え思いめぐらすにはどうしてもケーキの中身をみる必要があります。それが岩館海岸で連続してみられるという大きな特色が八峰町にはあります。

これまでの調査からは、9千万年ほど前から現在まで4回の火成活動（マグマが冷えて岩石になるまでの活動）が考えられていて、それぞれの活動にはそれぞれの壮大なドラマが隠されています。それらのドラマを構築していく楽しさは、どんなクイズを解くよりも楽しい活動と思われれます。

次回からは各ジオサイト（地層などをみる場所の意）の紹介を林先生を中心に連載していきます。お楽しみに。

冒頭の三連詩の最後「さらにいとおかし」から、ふとプレラノドンの顔を頭にえがいてみて、思わず笑みがこぼれました。

当町では、昨年5月「八峰町ジオパーク推進協議会」を設立し、平成24年度に日本ジオパーク認定を目指し活動しております。

八峰町ジオパーク推進協議会

会長 工藤 英美